

～子どもたちの明るい未来のために～

すずめっこ



仙台市確かな学力研修委員会
生活・学習状況調査部会

平成30年度 仙台市生活・学習状況調査 分析結果をお知らせします

仙台の子どもたちは がんばっている！！



1 失敗をおそれずにチャレンジしていますか？

2 自分の意見を言うことができますか？

3 スマートフォン等と上手に付き合ってますか？

さあ、開いて
ご覧ください。



実施
状況

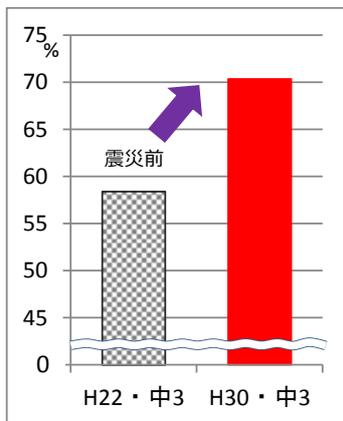
- ①実施校数・・・ 市立小学校 120校 市立中学校 63校 中等教育学校 1校
- ②実施日・・・ 平成30年4月12日(木)
- ③調査人数・・・ 小2 8,611人 小3 8,595人 小4 8,757人 小5 8,664人 小6 8,502人
中1 7,885人 中2 7,787人 中3 8,170人
- ④実施内容・・・ ○学校生活 ○授業 ○学習意欲 ○家庭生活 ○自由時間 ○家庭学習等 ○社会・地域との関わり
○道徳心・挑戦・夢 ○自分づくり の9領域についての質問紙調査

詳しくは
中面へ

難しいことでも、失敗をおそれないでチャレンジしている児童生徒が増えています。



「難しいことでも、失敗をおそれないでチャレンジしている。」

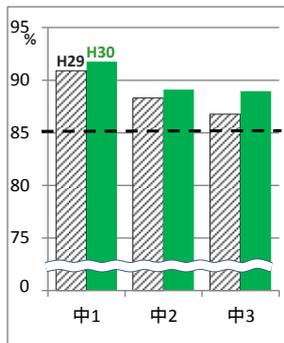


平成22年度の中3と比較しても、「難しいことでも、失敗をおそれないでチャレンジしている」生徒が増加してきています。



1 2
3 4

「家の人は、あなたの良いところを認めてくれていると思う。」

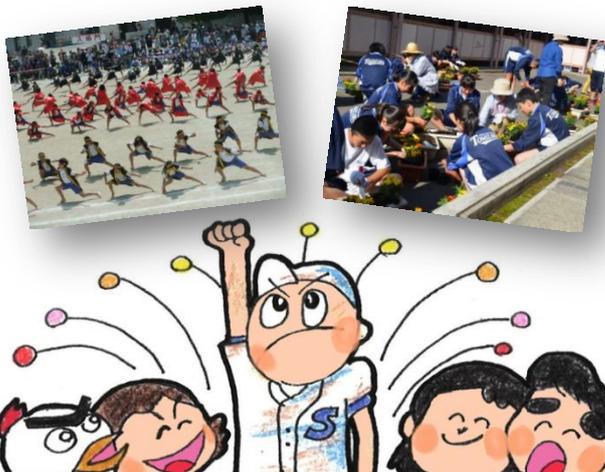


特に、中学生では「家の人が良いところを認めている」と回答した中学生は、85%を超えています。



よし!次もがんばろう!!

これからも、子どもたちのチャレンジを応援しよう!



子どもたちの頑張っていることを認め、自己有用感・自己効力感を高めることでチャレンジ精神を育てましょう。

学校では

児童生徒が他者のとの関わりの中で自信を獲得できる工夫を

児童生徒の取組を共感的に認め、褒めたり励ましたりする場面や、自分の行為が人の役に立っていることを実感できる場を意図的に設けることが大切です。他者を大切にすることを育み、集団の一員としての自信や誇りを獲得させることで、困難に立ち向かう挑戦心を育てましょう。

児童生徒が自分で成長を実感できる学習環境づくりを

様々な場面における児童生徒の変容について、学校内で共有しましょう。さらに、結果よりも児童生徒の取組の過程を認め、うまくいなくても、原因を一緒に考える機会を作り、再挑戦させることで、児童生徒が自分自身で成長を実感できる学習環境を築きましょう。

ご家庭では

挑戦心を育むためには、自信を持たせ、自己有用感・自己効力感を高めることが有効です。お子さん自身に、目標や努力する点、工夫する点を考えさせて、兄弟姉妹あるいは友達との比較ではなく、その子自身の成長軸に沿って認めることが大切です。お子さんの言動に共感して認めることで、自信を持たせたり、最後までやり抜くことの大切さを伝えたりすることで、自分の考えや行動に自信を持ち、更に高い目標に向かって挑戦しようとする心が育ちます。



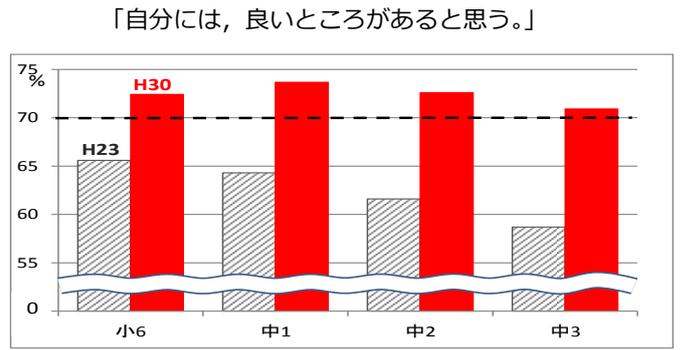
みんなと違って自分の意見を話す小学校6年生～中学校3年生の児童生徒が増えています。

僕の良いところは、メンバーの意見を聞き、チームを一つにまとめる力があるところです。

私の良いところは、得意なフルートを下級生に教えて、吹奏楽部の技術向上の一翼を担っているところです。

僕の良いところは、地域ボランティア活動に参加して、町内の清掃に力を入れているところです。

みんな自分の良いところをきちんと伝えるようになってきたね。



平成30年度は7割を超えており、震災からの復興とともに、気持ちが前向きになる児童生徒が増えています。

1 2
3 4

「みんなと意見が違っていても、自分の意見を話す。」

学年	H23 (%)	H30 (%)
小6	57	64
中1	56	63
中2	57	63
中3	58	65

自分の意見を話す児童生徒の割合も、平成23年度と比べると伸びていることが分かります。

たくましく生きる力育成プログラム授業プランを取り入れた授業

付箋紙に書いた相手の良いところを、直接伝えている場面

ディベート。友達の考えについて意見を交流し合う場面

きちんと話を聞いてもらえる安心感が自信につながり、意見が言えるようになります。

では、私の考えを...

お互いの考えを交流して、自信を持って自分の考えを積極的に発言できる子どもたちを育てましょう。

学校では

児童生徒がお互いの「良いところ」を伝え合う活動をする

「たくましく生きる力育成プログラム授業プラン集」(*たくましく生きる授業プラン集)にある「みつめる力(自己肯定感)」を育てる授業等を通し、友達から自己の存在を認められ、褒められることで、自己肯定感を向上させ、自分らしく成長しようとする態度が育ちます。このような活動を継続的に行うとより効果的です。

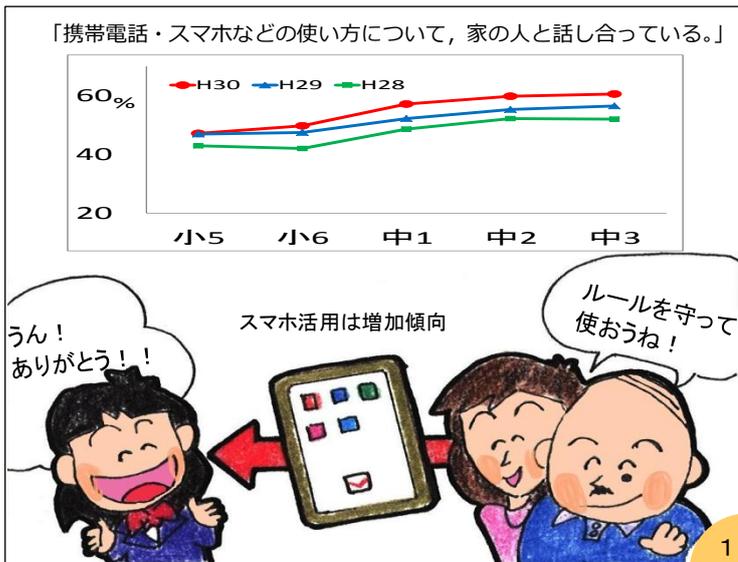
お互いの考えを交流させることで、「見方の多様さ」に気付かせる

「たくましく生きる授業プラン集」にある「いかす力」を育てる授業には、「ディベート」等の手法を取り入れた活動が紹介されています。教科指導等に取り入れて、児童生徒のお互いの価値観を尊重し合う経験を積み、積極的に自分の考えを発信する態度や、より良い人間関係を築く力を育みましょう。

ご家庭では

自己肯定感と主張性の間には、強い相関関係が見られます。そこで、「子どもは、褒められて育つ」とよく言われることから、お子さんの様々な取組について、結果ではなく、頑張っている姿を見逃さずに褒めるようにしたいものです。お子さんは自信を持ち、より自分らしさを発揮しようとしています。また、常にお子さんに「あなたはどのように思う?」と問いかけ、意見を尊重しながら関わり合うことで、主体性を持ち、自分で考える態度も養われます。

*「たくましく生きる授業プラン集」: 将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力である「たくましく生きる力」(かかわる力、みとおす力、いかす力、うごく力、みつめる力)を育成するための授業プラン集。

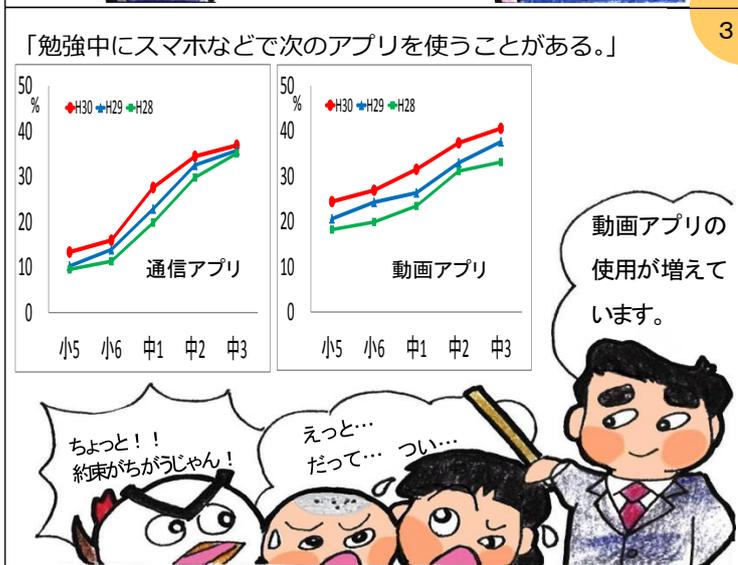


私の約束

- 1 午後10時以降は自室に持ち込まない
- 2 充電器がリビングに置く
- 3 勉強中は関係のないアプリは見ない

スマホは便利な道具です。有効活用のためにも、使い方やルールについて、お子さんとしっかりと話し合うことが大切です。

うちでは、このようにしました。



人の脳はひとつのことにしか集中できず、集中の邪魔になる情報には脳内で自動的に抑制がかかります。

勉強中の手が止まり、スマホの画面ばかり見ているように...

スマホ利用についての約束やルールを、子どもと一緒に考えてみましょう。

学校では

児童生徒による主体的な「スマホ利用のルール」づくり

個人でスマートフォン利用のマイルールを考えたり、児童会や生徒会が中心になり、各校のルールづくりに取り組んだりするなど、児童生徒が主体的にルールを作ることで、自己管理能力・自制心を持ってスマホ等を使用する習慣を身に付けさせましょう。

学校における「ながらスマホ」に対する指導と家庭・地域への呼び掛け

勉強中のアプリ使用と学力との関係について、児童生徒に気付かせ、学校だより等を通して、保護者や地域に配信し、学習中のスマートフォン利用を控えるよう協力を求めましょう。

ご家庭では

学習中にスマートフォンを利用していると答えた児童生徒の割合が年々増加しています。ルールを大人側から強制的に与えるのではなく、使用時間や使用方法のルールづくりの必要性に気付かせ、お子さんがスマートフォンと適切な距離を保つようにさせましょう。SNSの利用についても、保護者が把握できるような環境を作ることが、SNSトラブルからお子さんを守ることに繋がります。

イラスト…仙台市立広瀬中学校 大町 涼葉さん